

中学校 3年 特別活動

想像する
表す

× 書く

育成したい
国語力

読み手の受け取り方を予想する。
伝えようとする情報や内容がより効果的に伝わるように、文章構成や論理の展開・語彙の使い方を工夫する。

題材名

「学校行事（勤労生産・奉仕的行事）」

学習活動の流れ

第1次(1)

・感謝の気持ちを伝える方法や内容を考える。手紙やカードなどをかく。

第2次(1)

・感謝の気持ちを届け、懇談する。

第3次(2)

・高齢者との交流及び清掃活動を行う。

題材の目標

これまでの学校行事などを通して学んだ勤労の貴さや意義を振り返り、そのときお世話になった方々に感謝の気持ちを伝える方法を理解する。

国語力育成の視点

手紙を読んだときに相手はどのような気持ちになるのかということを考えることで、読み手の受け取り方を予想する力を育むことができます。また、自分の伝えたい気持ちをどのように文章に書き表すかということを考えて手紙を書くことで、伝えようとする情報や内容がより効果的に伝わるための文章構成や論理の展開・語彙の使い方を工夫し、表す力をはぐくみます。

第1次の流れ

導入

一斉

卒業を前にして、これまでにお世話になった方々を思い出す。

展開1

一斉・個別

感謝の気持ちを伝える方法を考える。

展開2

一斉

国語の学習内容を思い出し手紙やカードなどの書き方を確認する。

展開3

個別

手紙やカードなどを書く。

まとめ

一斉

手紙の交流次時の予告

視点①

どのようなことに対して、感謝の気持ちを伝えたいのかを考えることで、自分が手紙で伝えたいことは何かをまとめます。そのことを手紙で伝えたときに、相手がどのように思うかを想像することで、読み手の受け取り方を予想する力を育むことができます。

視点②

感謝の気持ちが伝わるように、文章の構成を考えながら手紙やカードなどを書きます。
伝えようとする内容がより効果的に伝わるよう、自分の考えを明確にし、文章の構成や展開・語彙の使い方、手紙文の書き方など、国語科で付けた力を活用できるよう国語科指導との連携を図ることが大切です。

ワークシート

中学校3年間を振り返ろう

- ・毎日の学校生活
- ・学校行事
- ・校外学習
- ・お世話になった方とその内容
())
- ())
- ())
- ())
- ())
- ・感謝の気持ちを伝える方法や工夫

手紙の基礎知識

「頭語、前文、本文、末文、あとづけ」というのが一般的な構成です。

頭語は、「拝啓」「謹啓」をはじめ、「拝復（返信の場合）」、「前略（急ぎの場合）」など、冒頭に書く手紙固有のあいさつ語です。もしくは、「ひと筆申し上げます」「前文お許ください」や「謹んでお手紙申し上げます」などを柔らかい表現を使う方がいいでしょう。

前文は、時候のあいさつ、相手の近況（安否）を尋ねる、自分の近況（安否）を知らせる、というのがいわば三大要素ですが、場合に応じて全部揃ってなくても構いません。最近会ったばかりなのに「お元気ですか」など書くのは違和感がある場合もあります。また、「前略」「冠省」など、急ぐことを示す頭語を使う場合は、前文は省いた方がいいでしょう。

末文は、健康を祈る、返事を求める、などを使います。
結語は頭語と対応させて「拝啓」なら「敬具」、「前略」なら「草々」などと決まっています。
あとづけには、日付、自署、あて名を入れるものです。

季節のあいさつ例

- ・立春とは名ばかりで、寒さのきびしい日も少なくありませんが、
- ・梅のつぼみもほころぶ季節となりましたが、
- ・まだまだ余寒きびしい日が続きますが、